

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	柳田 勝
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	商工観光課、学校教育課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	見込値	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278	40,483			
見込値			件	見込値	126	126	126	126	126	
					実績値	126	126			
見込値			件	見込値	99	99	102	102	102	
					実績値	99	102			
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。		①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	%	目標値	84.7	86.7	87.7	88.7	90.7
					実績値	83.2	81.6			
	②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	%	目標値	54.2	55.2	56.2	57.2	60.2	
				実績値	50.1	48.0				
	③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数	人	%	目標値	1,525	1,625	1,725	1,825	1,925	
				実績値	1,831	1,401				
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
	成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実測値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。								
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、真壁街並み案内ボランティア受付簿より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	登録有形文化財3棟を新規に登録した他、伝統的建造物群保存地区における消火訓練なども実施したが、成果指標に向上は見られなかった。市民アンケートについては、施策以外の影響要素が大きいという問題点はあるが、それらによる全体的な下落傾向を押しとどめるまで施策成果が上がっていないと言える。指標の値は向上しており、施策の比重が高かった真壁地区で高い数値を示すことから、複合的な社会情勢の変化による下落傾向の影響が大きい、施策の成果が低下しているとは評価できない。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①文化財などを大切に、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、30年度目標値86.7%に対し、81.6%と5.1%下回った。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は30年度目標値55.2%に対し、48.0%と7.2%下回った。いずれも全体の下落傾向に対して目標値の適正な修正が出来ていないことが乖離を大きくしているが、下落を押しとどめられていない。30年度は文化財防火デーを雨引山楽法寺で実施し報道にも取り上げられているが、例年と異なる事業としては、真壁地区における登録有形文化財の合併後では初めてとなる登録物件追加と、伝統的建造物群保存地区内における易操作性消火栓の使用実験及び防火訓練を行っている。アンケート結果を地区別にみると、指標①では岩瀬地区80.8%、真壁地区82.3%、大和地区82.7%、指標②では岩瀬地区43.3%、真壁地区53.9%、大和地区48.0%となっており、地区による差が大きい。特に真壁地区で高く、岩瀬地区で低い傾向が明らかであり、岩瀬地区に重点を置いた施策が必要と思われる。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、29年度に大幅に増加したが、30年度は例年並みに戻り1401人であった。ひなまつり中の案内日数は会員に無理が生じない範囲で調整しており、現在の会員数としては現行が相応と考えられる。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
H30年度に貢献度が高かった事業は、「出土遺物保存処理委託事業」、「文化財防火デー訓練事業」、「指定文化財等維持管理・調査事業」、「埋蔵文化財確認・試掘・発掘事業」、「街並み案内ボランティア事業」、「歴史資料館運営・教育普及事業」、「国指定史跡真壁城跡保存整備事業」であった。それぞれ計画に基づいて事業を実施し進捗させた。事業の結果が視覚的に確認できるものであり、市民に分かりやすいものが中心である。	国指定史跡真壁城跡については、整備に向けて重要な区域の発掘調査に入っており、最重点として十分な調査成果が上がるよう事業体制を整える。また、いまだ未調査の地区、資料が多いため、基礎的な調査を進めておく必要がある。地域の文化財に市民の興味関心を高めるためにも、新たな資料の発掘、光の当てられていない資料の調査研究による価値付けにも重点を置く必要がある。